

名家書簡披展：その三

雅俗の会

<https://doi.org/10.15017/4755975>

出版情報：雅俗. 3, pp.242-254, 1996-01-10. 雅俗の会
バージョン：
権利関係：



名家書簡披展

連載 その三

雅俗の会

本号は、中野三敏氏所蔵の北山昌蔵宛書簡一卷を軸装された順に掲載する。

北山昌蔵は大坂の儒者で、昌蔵は通称、号の七僧がよく知られている。名は皓、または正皓、字は白甫、号には七僧居士のほか、桃庵、仏橋、定武楼などがある。河内の人で、北山橋庵の従兄である。江戸に遊学して服部南郭に入門し、大坂に帰って柳沢淇園に学び、後に大坂過書船の役人となる。池大雅、高芙蓉らと交遊があり、古法帖を愛蔵し、茶や香を嗜み、好事家として知られた。著書には『相玉録』、『定武楼印累』、『北山詩艸』等があり、晩年医を業とし数本の医書もあるが、ほとんどが目録等ではか確認されていない。北山橋庵『雞壇嚶鳴』（明和元年序刊）付録に、七僧と通信使との詩の贈答を

見ることができる。享保三年生、文化三年五月十一日没、享年八十六歳。大阪市天王寺区大道超願寺に墓碑がある（『大阪訪碑録』）。

書簡翻字の原則は、本誌創刊号の凡例に従う。

一

寒冷之節御清壯目出候然ハ白雪餘歌¹乍²爾頼入候処幸一本所蔵有之由ニ而恵投之段扱々大悦ノ至ニ候併類本坂中ニ有候ハ、購得申度願世話候様ニと頼入候得共類本も其地ニ無之様子ニ而所蔵之一本ヲ申受候事不安心候幸ニ其元へ申入候已後ニ右集中之千種家²へ咄申候へハ彼家ニ二三本も類本有候間是ヲ一本予へ可贈旨ニ而申受候間今少

し御入合候而其元へ申入候可宜之よしと存候右之次第二候間被贈候一本返趙申候呉々申受候同事千萬申謝候入手頼申候

一華客之詩章之事尋申候処当年東渡之輩風流之客無之間近日崎陽之御社友上坂候間其節珍敷詩草類も可有之間見せ可給候旨大悦雀躍之至ニ候請主寛仁兄経義文章兼能之由ニ承及候へハ何そハ崎士一覽之品も可有之事ニ御座候一其元ニハ崎人唐客へも前々より贈答之義も有之様ニ傳承候間若哉前々華客之諸作且紀事等之冊子も有候ハ、御旧録之物ニ而も見せ可給候哉彼地ニ而村岡道四郎、盧傳次郎、中山太郎八三人へハ懇意ニ申通候間其節ハ何か示来之品も有之候へ共三人帰泉之後ハ一向左様之事も不承候詩文書画等も彼は見せ申候只其元前々より御録集之冊ニ而更ニ彼地へ御求給事ニ而ハ無之候御任序申越候尚期後音申候

十一月廿四日

琴台念

北山昌藏殿

尚々大潮老禪。七絶一首書示久々ニ而一覽熟吟申候謝々且又紫石詩草少々申受度年来存居候若其元大潮江通便

之節手書之留少々為予所望事可頼難候哉紫石ハ大潮後住龍津寺之嗣法と承候前方文章ヲ見申候事有之候詩文書法兼能と覚居申候ケ様ニハ申入候得共御心遣申候之義も有候ハ、少も不苦候間左様御心得可給候本書申入候前々ノ唐客之作も董可亭、沈草亭、¹⁰杯申候詩文ハ沢山ニ見申候書画ニ而も鄭培、¹¹伊孚、¹²九宋、¹³紫岩なども多所持申候此度申入候ハ画之義ニ而ハ無之候へ共為御心得申入置候尚いつにても答書ニ承度候也

註1 大本一冊。僧雪巖編。宝曆十一年刊。七十数家百十余首の

歳旦集。北山七僧「早春謝大潮老和尚見寄」七絶一首入集。

2 村上源氏。羽林家。家禄百五十石。『白雪余歌』に「千種武衛君」として三首入集している有政（宝曆三年から十一年まで右兵衛佐）は、寛保三年四月八日生、文化九年十一月五日没、七十歳。

3 延享二年より長崎聖堂書記役を勤める（長崎市立博物館聖堂文庫所蔵・向井元仲「覚〔書記御用方他分限〕」）。

4 唐通事。先名千之助、諱元驥、字千里、号勉細齋。宝永四年生、宝曆五年五月七日没、四十九歳（宮田安『唐通事家系

論攷』。『長崎先民伝』の著あり。

5 唐通事。中山家二代太平次の養子。太平次の死後別家の初代となった。宝暦十一年没(『唐通事家系論攷』)。

6 黄檗僧、漢詩人。名元皓、字月枝、号大潮・魯寮・西溟。

龍津寺第三代住持となる。延宝六年正月六日生、明和五年八月二十二日没、九十一歳。

7 僧名浄介、字初め浙潮、後紫石(『西溟余稿』卷三「紫石字義」)。龍津寺第四代住持。宝暦十年十二月二十七日没(川頭芳雄『大潮と売茶翁』)。

8 黄檗宗。山号宝寿山。佐賀蓮池藩主鍋島直之の寄進で化霖道竜が開く。昭和二十年八月、空襲により焼失。

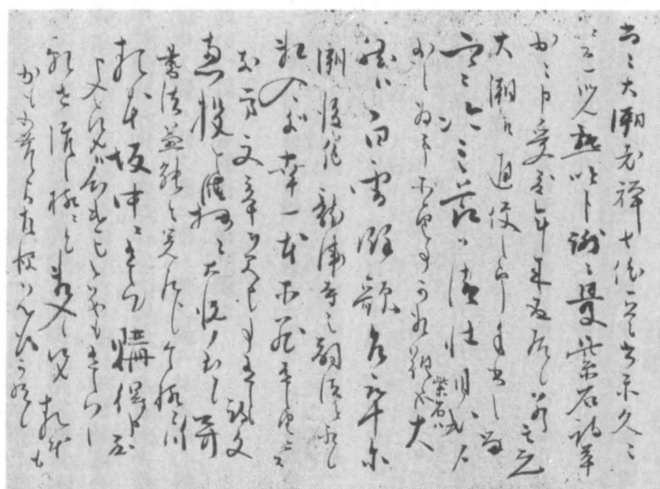
9 董寧。来舶清人。字宜一。可亭は別字。

10 沈瑠璠。来舶清人。字魚石。草亭は別字。

11 来舶清人。字山如、号古亭。沈南蘋の弟子。

12 来舶清人。名海、号草華野、漚川等。孚九は字。南宗画を広め、池大雅等に影響を与えた。

13 来舶清人。名岳、号石耕。紫岩は字。南蘋派邦人画家宋紫石はその弟子。



(179×892mm)

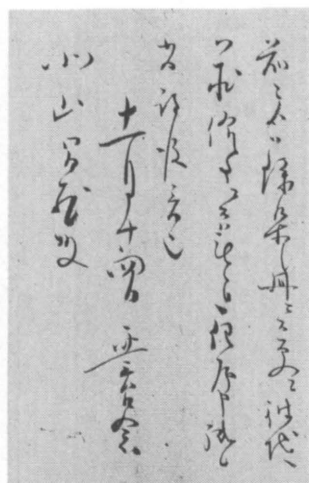
不盡萬諒察恐惶謹言

服部小右衛門

十一月十七日

元喬頓首

北山昌藏様



二

貴簡拜見即時寒凍殊甚候得共弥御平安之儀致恭喜候然者於郡山之地柳大夫長逝之儀被仰者驚入残念之御事ニ御座候右遺稿刊行有之様ニ相識被相催盛氣之至致企羨候因而拙集之事被仰越間遺息儀之丞殿書問被相添舊好之儀可應御求本意候得共老身近年衰耗殊甚萬端廃絶著作等之儀者尚以一向ニ難成何事も断ニ及候仕合乍残念不應御懇求候右儀之丞殿にも返書断申遣候尚又宜御心得可被下候野老今年七十六歳罷成奄々氣息存候計ニ而一切生事尽謝絶罷在候此節寒日手凍麻木候著作書甚艱勉強聊具答報候條艸

註1 柳大夫は柳沢淇園。大和郡山藩士。北山昌藏の師。名貞貴・

里恭、字公美、通称権之助・帯刀・図書・下野・権大夫、号

淇園。宝永元年生、宝暦八年九月五日没、五十五歳。

2 「大和文化研究」四卷五・六合併号に『淇園遺稿』（自筆

版下、相見香雨蔵）および『淇園遺稿』補遺（写本、天理図

書館）の翻字と解題が載るが、これらの文集と関係があるか。

3 三男で家督を継いだ光教か。淇園には四人の息あり。長男・

二男は夭折。四男は宝暦六年生で淇園没時は三歳。光教は寛

延三年十月生、文化十四年没、六十八歳（「大和文化研究」

四卷五・六号参照）。淇園没時は九歳。

4 服部南郭。北山昌藏の師。名元喬、字子遷、号南郭、小右

衛門はその通称。天和三年九月二十四日生、宝暦九年六月二

十一日没、七十七歳。

5 本文の「今年七十六歳」より宝暦八年。

半官相元印時字味
 涉中以下治中事
 清其奇然於山
 柳古矣也此後
 入陳之時事也
 利以中於陳
 卷之五
 此卷之五
 瑞之書
 以之書
 者之書
 得之書
 一向之書

(161 × 705mm)

官中治元石
 涉中治元石
 清其奇然於山
 柳古矣也此後
 入陳之時事也
 利以中於陳
 卷之五
 此卷之五
 瑞之書
 以之書
 者之書
 得之書
 一向之書

弥御安佳被珍重存候此方も不相替候拙子事頭ハ惣髪ニいたし名も蛻翁と改申候城外遠方へ出候日ハ大小刀ヲ佩候得共平生ハ一刀ニ成候もはや全逸民同然之身ニ罷成餘年を楽シミ申迄に候共易禮講書并詩文之指南ハ于今不絶仕候其元御氣力も好候ハ、御来訊待入候此一封松子文より参候間届候尚它に可申事候不恙

五月廿二日₂

蛻翁₃
印

註1 梁田蛻巖。明石藩儒。名邦彦・邦美、字景鸞、通称才右衛

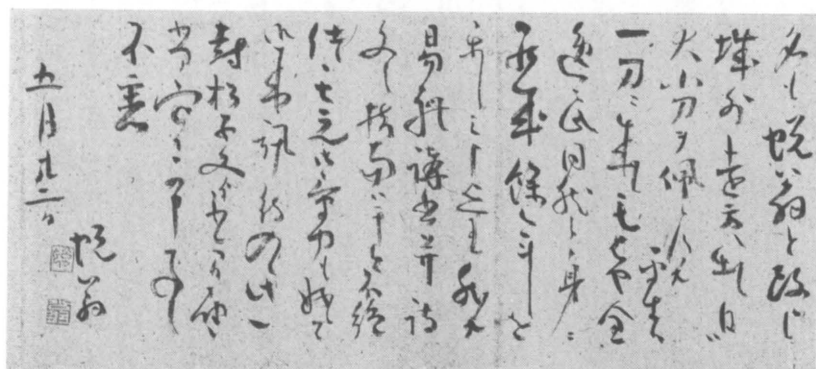
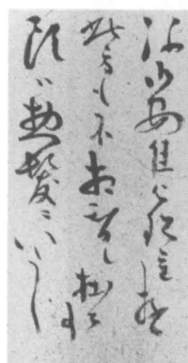
門、号蛻巖・亀毛。寛延二年十一月退隠、翌年夏惣髪となり

蛻翁と称す。寛文十二年正月二十四日生、宝暦七年七月十七

日没、八十六歳。

2 註1より寛延三年。

3 朱文方印（蛻） 白文方印（翁）



當春¹二月念九日華札三月廿四日落手忝致捧讀候然者此度坂井助之丞出坂之節者當國發足不存知候而以書札も御見舞不申入候キ此度御狀并ニ助之丞よりも書狀到來彼人出坂初而存知申候先以居士愈御堅固ニ被成御勤候而珍重ニ存候誠以先達而ハ如意銘一篇致進上候所其後御謝詞など被仰下御慰懃之至痛入存候又去ル午年三月中旬兩度迄御狀御訊尋被下候處今以右返書不申進候由定而右御狀ハ相届キ申候而此方よりハ右之返書不差登忘却仕候ニ而ハ無御座候哉手前日錄六七十年至^リ今年^ニ仕候日錄ニも不載候哉扱々年罷寄り慚愧不少候老裨今年八十六歳在世仕候得共老極諸事此以前とハ相替り間違耳御座候起居達者ニ暮シ候得共步行ハ去年七月初旬より不相叶五丁三丁ノ所ヲも轎より参候夫故他出トテハ餘り不致候不自由なる身ニ相成り申候

一御佳作一章被贈下不洩忝致復圭候添削ノ御紙面ニ御座候へ共一字一句も存寄り無御座候宜ク御出来与致吟詠慰老懷申候餘り喜ヒ之意故和韻二首致進上之候老人ノ致シ

方ト御覽可被下候古梅園²寶墨式枝被贈下何より之文物不打置致受用申候助之丞儀別而御懇意被仰下候由忝存候且弥御棄被成間敷候尚期後音之時候頓首不宣

五月十七日

長瀨寺、大潮

北山昌藏英士

猶以七僧居士ノ七僧ノ文字何レノ書ナドヨリ御取り被成候哉重便ノ節被仰聞度候返スく去年御兩度ノ御狀ハ此後尋ネ出シ候ハ、御しらセ可申進候龜末之至与迷惑ニ存候以上

註1 文中「今年八十六歳」より、宝曆十三年春。

2 筆墨の老舗、松井氏の屋号。本家は奈良。

3 佐賀本藩領上多布施長淵寺。大潮はその開山。

4 書簡一註6参照。

寶量部校書下何文
 物不置校書月明之
 少中然之休有市所
 評清葉成之為新法
 叶於小室
 五月十七日 長閑
 大朝
 北山昌茂美士

五

前日者御來過得寬話幸甚二候抑其節御約諾申候白石硯并
 彩筆二枝致遣上候御秘藏可被下候期猶貴面可申述候也

八月廿五日

七僧几下

辰頓首

註1 松下烏石。書家。名辰、字君岳・神力。号烏石。別号菽寶

処士・青蘿主人・東海陳人。烏石の上洛は明和頃。元禄十二

年生、安永八年十月没、八十一歳『近世能書伝』。

前日者御來過得
 寬話幸甚二候
 抑其節御約諾
 申候白石硯并
 彩筆二枝致遣
 上候御秘藏可
 被下候期猶貴
 面可申述候也
 八月廿五日
 七僧几下
 辰頓首

(206×379mm)

猶七傳士ノ七傳又其何レ者ナド
 ヨリテ取リテ寫シテ傳ハルル事ナリ
 嘉善二月九日奉札三月廿
 去年汝等ハ汝等ハ汝等ハ汝等ハ
 四日滿年亦汝等ハ汝等ハ汝等ハ
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 度場并助ノ血出場ノ血出
 尚由發之小知知ハハハハハハ
 涉又奉不ハハハハハハハハハハ
 曉之血ハハハハハハハハハハハハ
 初ハハハハハハハハハハハハハハ
 里國ハハハハハハハハハハハハハ
 誠ハハハハハハハハハハハハハハ
 名ハハハハハハハハハハハハハハ
 似下ハハハハハハハハハハハハハ
 又去年三月月中旬亥
 度ハハハハハハハハハハハハハハ
 今ハハハハハハハハハハハハハハ

(135×725mm)

中ハハハハハハハハハハハハハハ
 ハハハハハハハハハハハハハハハ
 其ハハハハハハハハハハハハハハ
 年ハハハハハハハハハハハハハハ
 其ハハハハハハハハハハハハハハ
 石通年ハハハハハハハハハハハハ
 ハハハハハハハハハハハハハハハ
 不ハハハハハハハハハハハハハハ
 夫ハハハハハハハハハハハハハハ
 一ハハハハハハハハハハハハハハ
 後主ハハハハハハハハハハハハハ
 一字ハハハハハハハハハハハハハ
 出ハハハハハハハハハハハハハハ
 其ハハハハハハハハハハハハハハ
 其ハハハハハハハハハハハハハハ

寫字部校書下何人
物亦打置校書利之
少中故之亦修之亦所
跡清棄之亦修之亦所
叶
五月十七日 長閑
北山昌茂英士

五

前日者御來過得寬話幸甚二候抑其節御約諾申候白石硯并
彩筆二枝致遣上候御秘藏可被下候期猶貴面可申述候也

八月廿五日

七僧几下

辰頓首

註1 松下烏石。書家。名辰、字君岳・神力。号烏石。別号寂寶

処士・青蘿主人・東海陳人。烏石の上洛は明和頃。元禄十二

年生、安永八年十月没、八十一歳（『近世能書伝』）。

前日者御來過得
寬話幸甚二候抑
其節御約諾申候
白石硯并
彩筆二枝致遣上
候御秘藏可被下
候期猶貴面可申
述候也
八月廿五日
七僧几下
辰頓首

(206×379mm)

六

両回貴書忝致拝見候其後益御清勝可有御坐致至祝候鶏壇唱和并寶墨御惠贈被下致感落候盛什和作之義被仰下早々可及拝答候處雅俗紛冗老嫗甚敷失禮之至無所謝罪候漸鄙作相調候故此度致送上候時下淫雨千萬御保重可被成候草々恐後不備

五月廿八日

瀧 弥八₂
愷

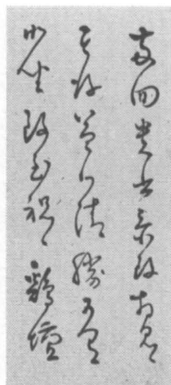
北山正藏様

註1 北山橋庵の漢詩集『難壇嚶鳴』（明和元年序刊）をさすか。

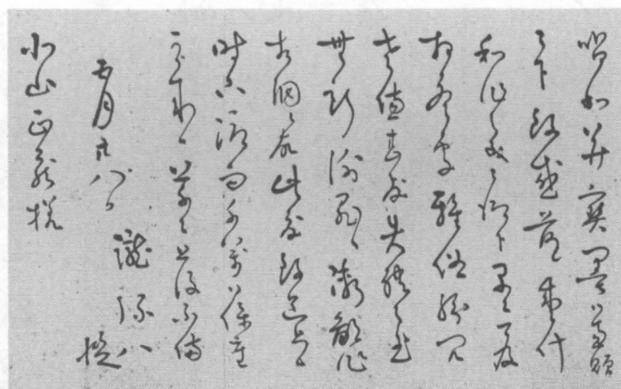
2 瀧鶴台。萩藩儒。名長愷、字弥八、号鶴台。山県周南のち

服部南郭に学ぶ。明倫館祭主となる。宝永六年生、安永二年

一月二十四日没、六十五歳。



七



(154×360mm)

舊臘發春并先頃当方火後三賜之貴書落掌辱致拝見候御清福二御暮被成致恭喜候鄙生無恙二罷在候旧冬より舊業

同学共集り致經紀候事御座候上火後懇意之者共数多致類
焼右ニ付殊之外日々紛冗乍存御答も及延引候多罪御容恕
被成可被下候

○先達而者烏石書御手刻之墨本御惠贈被下致珍藏候御跋語
も無残所殊ニ御彫刻精工驚目候山人ニハ定而御懇意ト被
察存候

○諸子輓章懸御目候様ニ被仰聞候是も取集メ候所追々致改
定候者も御座候而全備いたし不申候追而塞望いたし可申
候拙作も当春ハすきト無之是亦重便不懸御目候

○江田細合⁵二生返書御頼申候いつに而も御次之節御達可被
下候旧年者被思召寄佳品一器之内御遠贈被下辱致賞味候
餘期嗣音候誓報之段亮察是希草々不乙頓首

服部多門。

(花押)

四月十三日⁷

北山昌藏様
悟右

註1 服部南郭の死(宝暦九年六月二十一日)以降、元雄の死

(明和四年六月八日)までの年で、四月以前に麻布辺を焼い

た火事を索めて、宝暦十年二月四日の火事と推定(武江年表)。

2 松下烏石。書簡五参照。

3 服部南郭追悼の詩文。

4 江田世恭。通称富田屋八郎右衛門、号蘭台。大坂の人。古
書画の鑑定に名あり、藏書家としても著名。生年未詳、寛政
七年三月三日没。

5 細合半斎。漢詩人。名離、字麗王、号半斎等。京都生、大
坂住。菅甘谷門。享保十二年十一月二十八日生、享和三年十
一月六日没、七十七歳。

6 服部元雄。漢詩人。字仲英、号白賁、多門は通称。本姓中
西。摂津生。服部南郭門。のち養嗣子となつて服部家を継ぐ。
正徳三年生、明和四年六月八日没、五十五歳。

7 註1、註3より宝暦十年と推定。

